



①タイタ・ミー・バック・トゥ・ホエア・アイ・ワズ・ザット・デイ ②インビ
テーション ③オーバーデュ ④ピース ⑤フリー・ドロップス ⑥ノ
マッド ⑦バッド・エティクエット・ミスター! ⑧ラビング・ユー、サ
ムタイムス・リービング・ユー
●五十嵐一生(p) 市川秀男(s) 横山昌之(b) 本田珠也(d) 2005年6月
11, 28, 29日録音
●オーマガトキ(Omagatoki) OMCZ-1018 ⑤¥2,800 1月18日発売



①イット・ネバー・エンタード・マイ・マインド ②ブルー・イン・グリーン
③ベイビー・キャン・アイ・ホールド・ユー ④フィーバー ⑤オアシス
⑥エブリ・タイム・ウィ・セイ・ダッドバイ ⑦ムーン・アンド・サンド ⑧
リトル・ウイング ⑨ウィーバー・オブ・ドリームス ⑩イップ・イー
ジー・トゥ・リメンバー ⑪ダーン・ザット・ドリーム ⑫アイ・フォー・ル
ン・ラプ・トゥー・イーヴリー ⑬ゴールドン・スランパーズ
●バレリー・ジョイス(v) ローレンス・フェルドマン(as, ts) アンディ・
エズリン(p, arr) ジョン・ノバート(d)①②③ acoustic-b) タイム・ルファ
ープ①-③④-⑦⑧⑨ acoustic-b) ユージン・ジャクソン(d) 2005年
録音
●ユニバーサルクラシックス&ジャズ(Chesky) UCCT-1148 ⑤¥2,548
1月25日発売

五十嵐の真摯なミュージシャンシップのあり方に敬礼する

胸を張って、ワン・ホーンにて。65年生まれ、俊英トランペッターの10年弱ぶりのアルバム(通算6作目)だ。行間の妙を散りばめたオリジナル曲を中心に、ホレス・シルバー曲や流連エクスプレス曲なども取り上げる。参加奏者は市川だけ世代が上だが、なるほどの組み合わせの妙あり。なにからななまで、じっくり練りこんだ先にあるプロダクツなんだろうな。

まず耳に残ったのは、相心のコントロールとともに流れていく五十嵐のフレーズの木目細かさ、上質な官能性。ぼくが女性だったら、これは腰砕けになってしまうかもしれぬ。

そして、「光の濃淡で出来た帯」なんてワケの判らぬ説明をしたくなる、全体のコンセプトも素晴らしい。誤解を恐れずに書けば、「マイルス大好きさんが作った」ではなく、「マイルスを消化した五十嵐が作る」とこうなる、という確固たる仕上がり。丹精ながら、心の奥に嵐を持っている五十嵐の実像がここからはくっきりと浮かび上がる。そして、ひいては音の響きや佇まいに新しい感覚を持つ世代(実は、いくつかは録音したものに五十嵐がポスト・プロダクションを加えているという。もちろん、不自然さはない)の、鮮烈で瑞々しいジャズ観の表出となっている。

とにかく、生理的に、息を飲むほど美しい。五十嵐の真摯なミュージシャンシップのあり方に敬礼する。(佐藤英輔)

不思議な存在感をもった、気になるシンガーのデビューである

クールな表情をもつバレリー・ジョイスの透明感あふれる歌声に、ぐっと惹きつけられる。彼女のボーカルはどこまでも心地よさを漂わせ、厚かまでは消えてゆく雲のように美しく流れてゆくが、それだけでなく内部に深い情感が秘められているのが、大きなポイント。耳に快いからといって、単なる癒し系シンガーでは決してないのだ。ジョイスはアメリカ人の父と日本人の母のあいだに生まれて横浜で育ち、アメリカへ渡ってピアニストとして活動したが、ボーカルの才能も認められて、本作を録音することになった。マイルス・デイビスのデリカシーを、うまくボーカルで表現してみせる②。ケニー・バレル〜ギル・エバンスなどで知られる⑦の情感あふれる表現。どのトラックからも感じられるのは、つつまじやかな歌声に秘められている知的なコントロールの見事さだろう。それはまさにジョイスならではの、天性のフィーリングであると言っていい。スロー・テンポで歌われる⑧⑨⑩などにも、ハスキーな彼女の魅力が最高に発揮されている。それだけでなく、ジミ・ヘンドリックス⑥やビートルズ⑪などのポップ・ナンバーを、完全に自分のものにして歌いこなしみせるのにも感心させられる。④などではサックスのソロが、一層のグルーブ感を演出してみせるが、彼女の個性を最良の形で引き出してゆくバックのプレイも見事。不思議な存在感をもった、気になるシンガーのデビューである。(岡崎正彦)